

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末
創刊日：1999 年 12 月 8 日
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

2006 年 蝶理情報システム IC³ プロダクトレポート

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

プロダクトレポート

蝶理情報システム IC³ (アイシーキューブ)

蝶理情報システム株式会社



パッケージ事業本部 第4開発部 部長
打田 建治 氏 (中央)

パッケージ事業本部 第4開発部
ストリーミング製品第1グループ
山中 琢磨 氏 (左側)

システム営業本部 マーケティング部
販売促進グループ
肥高 樹里 氏 (右側)

橋本：IC³ (アイシーキューブ：以下 IC³) についてご紹介ください。

肥高氏：IC³ は、音声通話、映像、チャット、アプリケーション共有、ホワイトボードなどのコミュニケーションやコラボレーションのコアになる機能を、コンポーネント、あるいは部品として提供しています。(コミュニケーションやコラボレーション機

能を提供するインフラ的な位置づけとなる製品です。)

そのため、OEM 先様やインテグレータ様に提供して、その提供先様のアプリケーションに IC³ のコミュニケーション機能を組み込んでいただいています。

橋本：具体的にはどのような連携ができるのでしょうか。

打田氏：たとえば、グループウェアや EIP (企業情報ポータル) 等のアプリケーションとの連携が可能です。既存のアプリケーションにあるユーザ用の認証キーを、IC³ で再利用するという仕組みです。認証キーをそれらのアプリケーションと IC³ の両方に登録しなければならないとなると、両方をどう統合するのかということだけでなく、管理者にとってもシステム管理上の問題が出てくる可能性があるからです。ですから、認証システムが、LDAP であっても、DBMS であっても、その情報だけをいただければ、IC³ 内でデータを引き受けて処理することが可能です。

あるいは、ウェブコンタクトセンターなどのコールセンター向けに、IC³ とそのコンタクトセンター向けのアプリケーション (CRM など) との間で、コールIDと受電したID、相手の電話番号をキープして、それぞれがマッチングしたものをマッピングするという事も可能です。

当社では、連携の部分であるインターフェイスを重視しながら、短期間で連携、統合するコンポーネントを提供しています。

橋本：IC³ の特徴について教えてください。

山中氏：IC³ は、主に以下の5つの特徴があります。

(1) Web ブラウザのみで利用が可能です。そのためソフトをクライアント側にインストールをする必要がありません。容易にシステム開発ができるだけでなく、利用者側から

も、負担が少ないシステムです。ASP サービスとしての仕組みなどを短時間で構築できるメリットがあります。

(2)インターネットに対応し、さらに通常の電子商取引などの暗号化で使われているSSLによる128bitの暗号も対応しています。そのため、セキュアにデータ通信を行うことが可能です。

(3)NAT やプロキシサーバを介しても利用が可能です。面倒な設定の手間が省略できます。また任意の1ポートで運用可能です。

(4)低帯域でも安定した利用が可能です。同系のシステムですと、どうしても広い帯域を利用してしまいがちですが、IC³の場合は、音声や映像などの機能ごとに利用帯域幅を制御することが可能です。

(5)カスタマイズが容易で、Javascript、HTML、VBScriptの知識があれば自由にカスタマイズが可能です。

橋本：IC³は、アプリケーション共有の評価が高いと伺っています。

山中氏：アプリケーション共有は当社以外の企業からも提供されていますが、こういったシステムを導入する場合、他社との比較をされるユーザ様には、当社のアプリケーション共有機能を実際に体験して、「ここまでアプリケーション共有ができるのか」というお声をいただくことが多いです。

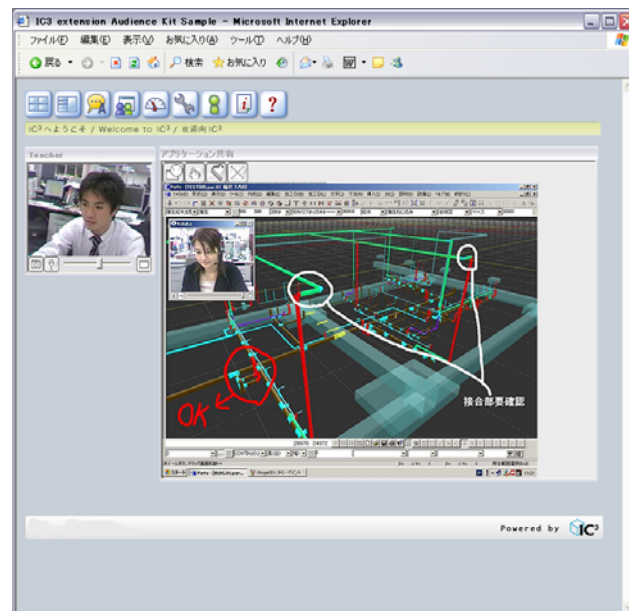
当社のアプリケーション共有は映像やデータの共有の他に、特に、3Dオブジェクトを扱うCADソフトウェアの共有で、その性能の高さを実感していただいております。その部分で評価していただき、すでにCADソフトウェアの共有作業でIC³をご活用されているユーザ様がいらっしゃいます。

アプリケーション共有はネットワークに負担がかかり、動作が遅くなるのではという見方があるのですが、当社のアプリケーション共有は、軽快に動きますので、他社に比べ良い評価をいただいております。

橋本：どういった企業に提供されているのでしょうか。

打田氏：このIC³は、OEM供給を前提に開発してきました。

OEMのターゲットとしては、グループウェアやEIP(企業情報ポータル)ベンダー様です。あるいは、IC³の機能を使っているASPサービス事業者などもあります。



IC³ アプリケーション共有機能

具体的には、パナソニックソリューションテクノロジー様が自社のグループウェアとIC³を連携させてパッケージとして提供されています。また「リアルタイムコラボレーション」というWeb会議向けのASPサービスも提供されています。

その他には安川情報システム様がコンタクトセンター向けのソリューションとしてヘルプデスク向けに「ブイコンタクトセンター」を提供されています。

また、SIer様や販社様にご提供するケースも多いです。一般企業様向けには、IC³をパッケージとしてもご提供しています。今までは、ウェブ会議としての利用目的でIC³を十数社へ提供してきましたが、アパレル業界向けのCADを販売されている東レACS様では、このIC³のアプリケーション共有機能を利用して、CADの保守の目的で活用されています。

販売先は製造業が多いですが、文教、医療などでの導入もあります。医療関係では、顕微鏡からの画像データを

IC³ のアプリケーション共有を使って高精細な迅速診断を遠隔地の間で行うという事例があります。

また、テレビ会議専用ハードウェアにデータ共有を追加するために、IC³ のアプリケーション共有機能を組み合わせたソリューションとして提供した事例もあります。また最近、ACL (アクセス・コントロール・リスト) を搭載したヘルプデスクのオプションもリリースしましたので、今後はカスタマーサポート業務などの要件にも対応していきたいと考えています。

当社の IC³ は、上位側のアプリケーションを含めると、他社の製品と競合関係になる場合がありますが、コンポーネントだけでみれば、パートナーともなります。当社としては、コンポーネントを提供できればビジネスとして成り立ちます。



IC³ を使った 9 人同時会議

橋本：今後の開発予定など教えてください。

打田氏：今後の開発予定としてはいくつかありますが、

(1)アプリケーション共有の関係では、アプリケーション共有機能の強化とともに、OpenGL 対応のオプション製品を発表する予定です。

(2)サポートされている現在の OS は、Windows ですが、今後モバイル端末用 OS の Windows モバイル対応を検討しています。

(3)音声は、ワイドバンド対応にする予定で、さらに高品質の音声が可能です。

以上のようなエンハンスを予定しております。

橋本：最後に読者へ一言お願い致します。

肥高氏：IC³ の評価版、評価サイトを準備していますので、ご検討の際には是非ご活用ください。評価版は弊社のホームページからダウンロードができます。IC³ の性能を是非体験して実感していただければと考えています。また、フィードバックをいただければブラッシュアップも逐次行っていく考えです。

よろしくお願ひ致します。

橋本：本日は有り難うございました。

蝶理情報システム株式会社
「IC³(アイシーキューブ)」

http://www.cjs.co.jp/pkg/web_collaboration/index.html

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
「リアルタイムコラボレーション」

http://panasonic.co.jp/pss/pstc/products/real_time/index.html

安川情報システム株式会社
「V Contact Center」

<http://www.ysknet.co.jp/product/network/vcc/index.html>

連絡先:

蝶理情報システム株式会社
システム営業本部

東京支社: 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-25-8
タカセビル
TEL (03) 5949-1760

大阪本社: 〒541-0059 大阪市中央区博労町 2-2-13
大阪堺筋ビル
TEL (06) 6125-4828